

保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究

—質の保障・向上システムの構築に向けて

課題番号：19H05590

野澤 祥子

東京大学・大学院教育学研究科・准教授



研究の概要

保育の質の保障・向上の方策を検討することは喫緊の課題である。本研究では、保育の質の保障・向上を支援するシステムの構築に向けて多層的・多面的な知見を得ることを目指す。保育の質と子どもの発達の関連を縦断的に検討し、保育の質の保障・向上に向けた自治体の取り組みの実態を調査するとともに、自治体と園の効果的な取り組みのあり方を構想し、実装する。

研究分野：保育学

キーワード：乳児保育 保育の質 発達 子ども 自治体

1. 研究開始当初の背景

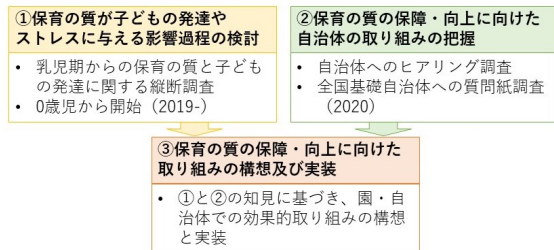
生涯にわたる心理社会的適応や幸福の基盤となる資質能力を形成する上で、乳幼児期に経験する保育・教育の質が重要な役割を果たすことが、海外の長期縦断研究の結果から実証的に明らかになっている。そして、欧米圏のみならず世界中の多くの国が、乳幼児期の政策を優先課題とし、保育の質向上のためのデータベース構築を目的とした縦断研究を開始している。しかし、わが国では、そうした縦断研究がほとんど行われておらず、保育の政策形成や実践向上のエビデンスとなりうるデータが非常に乏しい。

またわが国では、保育ニーズ（特に3歳未満児）の増大により、待機児童問題が深刻化する状況で、多様な新規施設によって保育の量的拡大が急激に進展してきた。保育の量的拡大が優先的に進められる中で、保育の「質」が適切に保障されているかについて大きな懸念が生じている。一方で、2017年に告示された保育所保育指針や幼稚園教育要領では、人生の基盤を形成する発達早期の重要性に鑑み、乳幼児期の学びの芽生えを支える保育が重点化され、そのあり方が問われている。乳幼児期の保育の質の保障・向上に向けた方策を検討することは喫緊の課題だといえる。

2. 研究の目的

本研究では、第一に、保育の質を多面的に評価し、その実態を把握するとともに、保育の質が子どもの発達に影響する過程を縦断研究によって詳細に検討する。第二に、保育の質の保障・向上に向けた自治体の取り組み

の実態を調査する。第三に、上記の調査結果に基づき、自治体と園の効果的な取り組みのあり方を構想し、実装する。以上の研究を通じ、保育の質の保障・向上を支援するシステムの構築に向けて、多層的・多面的な知見を得ることを目的とする。



研究の全体像

3. 研究の方法

研究の目的に対応して、以下の3つの研究を実施する。

1）保育の質が子どもの発達やストレスに与える影響過程の検討 質問紙調査、訪問観察調査（ITERS-3/ECERS-3）、保育室の環境センシング（温度、湿度、CO2濃度、照度等の自動計測）によって、保育の質を多面的に評価する。また、標準化されたスケールを用いて子どもの発達を評価する。保護者に家庭養育について尋ねる質問紙調査を行う。0歳児クラスから縦断的に調査を行い、変数間の関連を精緻に分析する。

2）保育の質の保障・向上に向けた自治体の取り組みの把握 保育の質の保障・向上に向けた自治体の取り組みについての質問紙調査を、全国基礎自治体を対象として実施する。

また、取り組みやその実施経緯、直面した課題等についてヒアリング調査を行う。保育の質の保障・向上を支える自治体の取り組みのあり方、取り組みが可能になる要因やプロセス、さらに国の政策と自治体の政策との関連について明らかにする。

3) 保育の質の保障・向上に向けた取り組みの構想及び実装：1) と2) の研究知見に基づいて、保育の質の向上に向けた園と自治体での効果的な取り組みのあり方を構想・提案する。アクションリサーチとして、構想の一部を、特定の自治体や園との協働で実施し、実施プロセスや有効性の検討を行う。

4. これまでの成果

1) 保育の質が子どもの発達やストレスに与える影響過程の検討

①新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響と対応：2019年度に0歳児クラスを対象とした調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で調査が中断した。さらに2020年4月～5月には緊急事態宣言が発出された。休園や登園自粛の措置が行われるとともに、開園している園では感染予防対策の必要が生じた。感染予防対策やそれに伴う葛藤が、保育の質や子どもの経験に影響を与える可能性や、休園や登園自粛が家庭の子育てに影響を与える可能性が考えられた。そこで、コロナ禍の実態を把握することを目的として、「新型コロナウイルス感染症に伴う乳幼児の保育・生育環境の変化に関する緊急調査」(オンライン調査)を実施した。園調査は954名、保護者調査は2,679名の回答を得た。緊急事態宣言下の園や家庭で、様々な面での混乱や葛藤が生じたこと、その一方で様々な工夫も生まれていたことが明らかになった。この調査結果と、国内外の他機関が実施した調査を収集し、レビュー論文にまとめた。これは、コロナ禍という未曾有の事態での保育に関する歴史資料的な価値もあると考える。さらに、2月～3月に対象自治体の縦断調査協力園以外の園を対象として「保育の実践及び新型コロナウイルス感染症の影響と対応に関する調査」を実施した。

②縦断調査：2020年度に改めて0歳児クラスを対象とした調査を実施した。対象は、東北から九州まで全国各地の11自治体にある36園である。感染予防対策が継続していたことから、訪問観察調査は中止し、質問紙調査と保育室の環境センシング(温度、湿度、CO2濃度、照度等の自動計測)を行った。今後、データを整理し、変数間の関連を精緻に分析する。

2) 保育の質の保障・向上に向けた自治体の取り組みの把握

2019年度から2020年度にかけて対象自治体へのヒアリング調査を行った。また、2020年度に全国基礎自治体を対象とした、「乳幼児期の保育・教育の質保障に関する全国自治体調査」を実施した。全国

1,741基礎自治体に質問紙を送付し、705件の回答(回収率40.5%)を得た。今後、自治体規模や地域による差などに着目して分析を進めていく。

3) 保育の質の保障・向上に向けた取り組みの構想及び実装 2021年度以降に、以下の取り組みについて、保育現場への実装を予定しており、2019年度～2020年度にその準備を行った。①環境センシングの可視化アプリ：センシングデータ(保育室の空気環境等)を可視化するアプリを保育室に設置する。②保育振り返りアプリ：保育者自身が保育を振り返り、考えることを支えるアプリを用いて園内研修を実施してもらう。③保育中の視線計測動画を用いた研修：ウェアラブルアイトラッカーを用いた視線計測動画を見てもらい、保育中にどこに目を向けているかを考える研修を行う。



環境センシングの可視化アプリ

5. 今後の計画

1) 保育の質が子どもの発達やストレスに与える影響過程の検討

既に得られているデータの分析を進めるとともに、各年度に保育の質と子どもの発達についての調査を実施する。

2) 保育の質の保障・向上に向けた自治体の取り組みの把握 質問紙調査データの分析を進めるとともに、特徴的な取り組みを行っている自治体にヒアリング調査を行う。

3) 保育の質の保障・向上に向けた取り組みの構想及び実装 取り組みを保育現場に実装し、その有効性や課題を検討する。

以上の知見を統合し、保育の質の保障・向上を支援するシステムを構想し提案することを目指す。

6. これまでの発表論文等(受賞等も含む)

野澤祥子・淀川裕美・菊岡里美・浅井幸子・遠藤利彦・秋田喜代美 保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響についての検討 東京大学大学院教育学研究科紀要, 60, 545-568. 2021

野澤祥子 新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響について 小児保健研究 80(1), 15-18. 2021

7. ホームページ等

http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/kaken_sl/